

ディスカッション補足資料

2024年4月19日(金)

IPCC報告書オンラインイベント
「専門家と考える、気候変動と生物多様性の未来～対策の両立に向けて」

参加登録時に頂いた「質問、悩み」「専門家への期待」

<p>企業活動・評価の困難性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動～評価まで全てカバーしたNbSの実践は技術的資金的に困難 ● 長期的かつSBT的な指標選定を含めた数値目標設定が困難 ● 生物多様性への影響評価が難しい ● 国内企業は何ができるのか？、限られた資源でCC/BD対応を同時に進める方法は？ ● 担当になったが何をすれば良いのかわからない
<p>理解促進(企業内・産業界)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性の社内理解が進まない、脱炭素に比べて動きが遅い ● 企業のお金を稼ぐ部署の皆さんを巻き込んでいく方法は？ ● すべき、よりも、どこにチャンスがあるか、を示して欲しい(複数) ● 政府、産業界への積極的な提言をして欲しい ● 事業者が経済原理に基づき行動を起こすような情報発信をして欲しい ● 日本の視点からみたシナジー・トレードオフは如何に ● 科学者や専門家とメディアとの定常的な連携促進は如何に
<p>生活者への伝え方／個人が出来ること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民にどう伝えればよいか ● 生物多様性を生活者にとってどう価値に変えるか？ ● 生物多様性の危機が見えにくい ● 個人が出来ることは何か(複数) ● IPCCの活動と個人の日常をどう結び付けるか ● 環境意識と自分の行動とのズレ ● 網羅的視点だけでなく、キーメッセージの設定を ● 根本的な自然保護の大切さの継続的な訴求
<p>トランジションに向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種特性による課題をどう乗り越えていくのか ● 現状実態と社会・企業活動がどう変わる必要があるか ● ファイナンスと生物多様性のつなぎ方 ● 組織や地域社会を変えていくためには ● 市民の声を政策に反映させるための方法は

● 民間企業 ● 行政機関 ● その他

参加登録時に頂いた「質問、悩み」「専門家への期待」(2)

以下の一部についてはパネリストの説明資料に含めました。その他については、関連する情報が記載されている参考資料(次頁)の一覧を用意しました。そちらをご参照ください。

生物多様性とは 生物多様性の評価指標	<ul style="list-style-type: none">○ 生物多様性の捉え方がいまいちわからない○ 生物多様性とTNFDの違い○ 生物多様性のための評価指標とは○ NbS活動の参加促進のよい事例
気候変動、生物多様性の 間の相互関係など	<ul style="list-style-type: none">○ 気候変動と生物多様性との関係(複数)○ 気候変動・生物多様性と農業との関係○ 海水温上昇による水産資源への影響

参考情報の紹介

(下線部をクリックすると、該当HPに移動します。)

✓ [国立環境研究所 IPCC 第6次報告書 第3作業部会 \(IPCC AR6 WG3\) 解説サイト](#)

IPCC 第6次評価報告書 第3作業部会 (緩和策) 報告書に関する解説資料・動画を複数用意している。

✓ [国立環境研究所 気候変動対応情報プラットフォーム \(A-PLAT\)](#)

気候変動適応策を進めるために参考となる様々な情報を掲載。その中に[IPCC 第2作業部会 第6次評価報告書 特集ページ](#)も用意されている。また、気候変動の[分野別影響&適応](#)の概要を紹介している。

✓ [IGES地球環境戦略研究機関 IPBES特集](#)

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学・政策プラットフォーム (IPBES) に関する情報を提供。

✓ [環境省 IPCC 第6次報告書 サイクル 報告書及び関連情報](#)

✓ [環境省 みんなで学ぶ、みんなを守る生物多様性](#)

✓ [環境省 気候関連財務情報開示タスクフォース \(TCFD\)](#)